



双塔

カトリック新潟教会

2020年2月
No. 381

バレンタインデー

協力司祭 ホセ・ルイス・ロレンソ

二月といえば、バレンタインデーですね。バレンタインといえば、愛です。とくにロマンティックな愛、恋人同士の愛。日本に来てから、義理チョコのことを知りました。最初は文化として面白いと思いましたが、少し考えると、愛の商品化ではないかと思いました。どこかの記事を読みました。日本で販売されているすべてのチョコレートの20%はバレンタインの日に販売されている、と書いていました。いい商売になっています。それに、ホワイトデーもあるので、3月も、チョコレートの販売は普段よりも多いかもしれません。でも、バレンタインデーはチョコレートよりも愛です。

夫婦の愛は結婚生活が長くなればなるほど、いろいろなチャレンジが出てくると思います。私は結婚講座の時に一つ言うことは、「結婚する前に皆さんはよくデートをします。結婚してからでも、是非、夫婦の二人だけの時間を作って、デートを習慣として続けてほしい。二人の話し合いの時間があれば、結婚生活もますますうまくできると思います。」と。バレンタインデー当日にはレストランやいろんな店は混んでいるかもしれませんが、別の日でもいいから、夫婦のデートをいかがでしょうか。

私たちはキリスト教の信者として愛は大きなテーマです。愛がすべてとも言えるのではないのでしょうか。愛によって、人間が創造されました。愛によって、神の子が人になって、人類のためにご自分の命を捧げました。最も大切なおきては、神を愛し、隣人を愛することです。聖書そのものは神様のラブレターとも言われています。したがって、バレンタインは普通、男女の愛が中心ですが、家族、友達、全人類に対する愛もあることを忘れてはいけません。時々、人に挨拶することだけでも、相手にとって大きな愛のしるしになります。この簡単なことから始まってもいいのです。

最後に、これらの引用を分かち合いたいと思います。最初は「預言者」という本から。
『愛しているとき、神が私の心のなかに、と言わないように、言うならばむしろ、私が神の心のなかに、と。思ってもならない。あなたがたが、愛の歩みを導けるなどと。なぜなら、愛こそがあなたがたの歩みを導く。もし、あなたがたにその価値があると見れば。』

「カリエル・ジブラン（著）、佐久間 彪（訳）」

次は、聖書から。

『愛は忍耐強い。愛は情け深い。妬まない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、怒らず、悪をたくらまない。不正を喜ばず、真理を共に喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。愛は決して滅びません。』（1コリント 13:4-8）